

第 1 回五木地域における林業の成長産業化に向けた全体構想検討委員会  
議事要旨

1. 日時 平成 27 年 12 月 7 日 (月) 13:30~16:30
2. 場所 五木村役場大会議室
3. 出席者  
(委員)
- 協定者
    - 中林 博之 (国研) 森林総合研究所森林整備センター  
熊本水源林整備事務所 所長
    - 片岡 明人 住友林業(株) 理事
    - 那須 主隆 九州横井林業(株) 代表取締役
    - 塩見 幸義 王子木材緑化(株)大阪支店日向営業所 所長
    - 松本 哲生 日本製紙(株) 原材料本部 部長
    - 大場 謙三 日本製紙木材(株) 西日本支店八代営業所 所長
  - 学識経験者
    - 藤掛 一郎 宮崎大学農学部 教授
  - 行政機関
    - 長谷川 誠 熊本県農林水産部森林整備課 審議員
    - 眞鍋 行博 熊本県球磨地域振興局農林部 林務課長
    - 下内 泰臣 五木村 農林課長
    - 岩村 和輝 八代市 農林水産部 農林水産政策課 泉農林水産事務所 主任
  - 森林組合
    - 福田 健二 八代森林組合 参事
    - 中野 重実 五木村森林組合 参事
    - 山尾 祐治 五木村森林組合 総務課長
    - 土肥 洋 相良村森林組合 事業課長
  - オブザーバー
    - 吉田 正樹 (一社)日本プロジェクト産業協議会 森林再生事業化委員会 委員  
三井物産フォレスト(株)業務本部 企画業務部長
- (林野庁)
- 齋藤 哲 林野庁経営企画課 企画官
  - 柏 智久 林野庁経営企画課 地域森林計画係長
  - 中山 浩次 九州森林管理局 業務管理官
  - 井堀 秀雄 九州森林管理局 企画調整課長
  - 黒木 興太郎 九州森林管理局 流域管理指導官
  - 内村 圭一 九州森林管理局 企画官 (森林総合監理士、委員)

濱田 秀一郎	熊本南部森林管理署長（協定者、委員）
中嶋 紀光	熊本南部森林管理署 森林技術指導官（協定者、委員）
白濱 正明	熊本南部森林管理署 総括森林整備官（森林総合監理士、委員）
（事務局）	
城土 裕	（一社）日本森林技術協会 業務執行理事
大倉 孝行	（一社）日本森林技術協会 九州事務所長
金森 匡彦	（一社）日本森林技術協会 事業部森林情報グループ グループ長
吉田 城治	（一社）日本森林技術協会 事業部森林情報グループ

#### 4. 主な発言

（関係者による森林経営の推進について）

- ・ マスタープランの策定にあたっては、全ての協定者や関係者が共有できるような「ビジョン」を持つことが極めて重要。また、「ビジョン」は総花的にならないよう、ポイントを絞ったものが良いのではないか。
- ・ 事業計画について、図示化などにより協定者間での情報共有を図っていききたい。特に、路網整備については、連携した取組により効率的に進めていききたい。
- ・ 森林簿やGISデータなどについて、協定者間での情報共有を進めていききたい。情報共有は全ての取組の前提になることから、極めて重要。
- ・ 全ての協定者が共同施業団地の運営について一緒に取り組めるよう、運営の仕組みについて工夫してほしい。
- ・ 全体構想の検討については、五木地域の森林づくりの全体像にも繋がるものであり、民有林と国有林の森林総合監理士（フォレスター）の役割も極めて重要。

など

（効率的・安定的な林業経営の推進について）

- ・ 伐採、搬出、造林、保育のそれぞれの段階で、コスト低減に向けた取組を進めていくことが重要であり、これまでの自社での取組、ノウハウを共有していききたい。
- ・ 九州北部豪雨により主要な路網が使用できない状況になったが、団地内での路網連結・共同利用を行い、輸送ルートを確保することができた。
- ・ 路網整備の検討にあたっては、既存路網の状況把握をしっかりと行いつつ、地域の道路網など「異種の道」のネットワーク化を視野に、地域全体で計画的に進めていくことが極めて重要。
- ・ タワーヤーダなどの高価な機械については、共同利用しながら効率的に運営していくことがコスト低減の観点から極めて重要。高性能林業機械を効率的に活用する仕組み作りを行いたい。
- ・ シカ被害対策については、徹底的に取り組むことが重要。シカネットを設置しても、翌日には被害を受けているようなケースも見られる。現状では決定的な対策が出来ておらず、各協定者で行っている対策の効果などについて情報共有を図ってい

きたい。

- ・ コンテナ苗は優れている面もある一方で、実績が乏しく取り扱いに苦慮。技術面での情報共有をしてほしい。
- ・ 海外事業で多くの実績があり、こうした取組を五木地域での取組にも反映していきたい。

など

(原木供給力の拡大について)

- ・ 九州森林管理局のシステム販売に参加。合板製造業者、チップ製造業者とシステム販売の協定を締結し、丸太の供給を行っている。
- ・ 原木供給力の拡大に向けて、路網の整備を計画的に行い、搬出間伐を積極的に進めていきたい。
- ・ 末木枝条やタンコロを低コストで搬出する仕組み作りを行いたい。
- ・ 路網整備の計画とあわせて、大型のトレーラーに積み替えを行うような中間の土場の整備についても検討すべき。熊本県で検討している中間土場との連携も視野。
- ・ 末木枝条やタンコロも含めて、山から生産される全ての資源について有効に活用することが重要。

など

(担い手の確保・育成について)

- ・ 地元の森林組合や事業体などとの連携を進めていきたい。また、担い手確保に向けて、協定者間でも連携を深めたい。
- ・ 技術力・生産性の向上や労働災害防止の観点からも、現地講習などに積極的に取り組んでいきたい。
- ・ 架線系による作業を前提とするような急傾斜地・急峻地が少なくないなかで、架線集材に係る技術開発や技術者の育成などは重要な課題。
- ・ 高性能林業機械の有効活用により安全性及び生産性の向上が期待できる。担い手の確保・育成の観点としても重要。

など

(新たな需要の創出について)

- ・ 木質バイオマスのエネルギー利用など、需要動向について情報提供をしてほしい。
- ・ 新たな需要の創出という観点で、輸出についても積極的に取組を進めたい。また、需要調整の観点でも、重要な需要先の一つとして考えていくべき。
- ・ 国産材の利用が進んでいる合板についても、コンパネや複合床板の台板などで更なる需要が期待できる。A材価格の下支えという観点からも重要。
- ・ 木質バイオマスのエネルギー利用やCLTの開発などの需要創出の取組とあわせて、将来の木材需要の拡大に向けて木育の取組も積極的に取り組んでいきたい。

など